

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	62.5	51.0	61.6	51.0
	(1.02)	(0.91)	(0.99)	(0.98)
R8 正答率の全国比		0.84		0.90

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】県平均・全国平均よりも低い正答率

- ・問題形式ごとに見ると、選択式や記述式問題の正答率は、県及び全国平均より低い。
- ・内容別に見ると、「話すこと・聞くこと」の正答率は県及び全国平均より低く、全国平均を 1.0 以上下回っている。「書くこと」は県平均より高く全国平均より低い。県及び全国平均を下回った問題は、資料活用と表現、情報と情報の関係について理解する問題である。

【算数】県平均・全国平均よりも低い正答率

- ・問題形式ごとに見ると、選択式・記述式問題の正答率は、県及び全国平均より低い。
- ・観点別に見ると、思・判・表については、平均正答率が全国平均より 1.0 以上下回っている。
- ・領域別に見ると、「データの活用」の正答率は、県平均より高い。「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」の正答率は、県及び全国平均よりは低い。県及び全国平均を下回った問題は、立体の体積と百分率、概数の問題である。

【意識調査】

- ・「毎日同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きている」と回答した児童の割合は、県および全国平均を上回っており、基本的な生活習慣が極めて良好に定着している。
- ・「学校に行くのは楽しい」と肯定的に回答した児童の割合は 8 割を超えている。また、「困りごとや不安があるときに、先生や学校の大人に相談できる」と回答した児童は 7 割以上を占めている。
- ・「ICT 機器で文章を作成することができる」「プレゼンテーションを作成することができる」という項目において、肯定的な回答の割合が県および全国平均を上回っている。授業内での利活用が進んでおり、児童が学習の有効なツールとして実感を得ている。
- ・国語の学習に対する「好きである」「得意である」「内容がよく分かる」といった肯定的な回答の割合は、県および全国平均と同等かやや上回っている。一方で、算数に対する「好きである」「得意である」と答えた児童の割合は、県・全国平均と同等かやや下回っている。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・定着している良好な生活習慣や高い学校生活満足度を基盤とし、ICT を活用した協働的・個別最適な学びをさらに推進する。また、端末を「ほぼ毎日」の学習ツールとしてより日常的に活用できるよう、全教科での日常使いを工夫する。
- ・「授業づくりステップ1 2 3」を用いて、「書く活動」「話し合う活動」を重点的に取り組み、定期的に振り返ることで、授業改善について意識の継続を図る。
- ・教科を問わず、振り返りなどを通して条件付きの文章作成に取り組ませる。例えば、お題に合わせた日記の宿題（条件作文）を継続して行う。また、短文ワークやミニ作文などを取り入れ、条件に合わせて書く活動を取り入れる。つなぎ言葉を入れた文を書くことや、読み取る練習をする。
- ・タブレットのドリル機能を活用し、6年生の内容だけでなく他学年の単元も復習として課題を配信する。
- ・図やグラフなどを準備し、視覚的に理解できるようにする。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・教科等の学習に読書活動を取り入れた実践を行う。
- ・西っ子タイム等の時間を使って、タイピングをさせる時間と、読書の時間を分けて与える。
- ・校内研究では、「個別最適な学び」「協働的な学び」を意識した授業づくりを行い、授業研究会等を開き、授業改善に取り組む。
- ・必要に応じて可能な限り、TT 授業や少人数指導ができるような支援体制を整える。理解度に応じた少人数指導を取り入れ、既習事項の復習も兼ねながら指導を進める。